

### みおしえ

うるわしく、あてやかに咲く花でも、香りの無いものがあるように、善く説かれたことばは、それを実行しない人には実りがない。

(法句經五一中村元訳)

うるわしく、あてやかに咲く花で、しかも香りのあるものがあるように、善く説かれたことばも、それを実行する人には、実りがある。

(法句經五二中村元訳)

この法は、仏が、サーヴァッテイ(舎衛城、祇園精舎)に住んでおられたとき、チャッタパーニ(傘を手にする者)というものは人間界にもどることなく、梵天界以上の階位に上って悟りに至るとされた不還果と言う境地にある男性信者について説かれたものである。ある日、コーサラ国のパセーナデイ王がマツリカー王妃とヴァーサバ王女のため、チャッタパーニに説法をしてほしい、と願った。しかし彼に辞退され、王は仏のもとへ行つた。仏はそこでアーナンダ(阿難・多聞第一)長老を派遣することにした。

ときに仏は長老に、彼女たちがどのようなように学んでいるかをお尋ねになった。長老は、「マツリカー王妃は恭しく受け、学んでおります。しかし、ヴァーサバ王女はそうではありません。」と答えた。

すると仏は、「アーナンダよ、私によって語られた法は、恭しく聞かない者、受けない者、学ばない者には、ちょうど色をそなえない香りのない花のように、実りのあるものになりません。しかし、恭しく聞く者、受ける者、学ぶ者には、大利益のあるものになります。」と言って、これらの偈を唱えられた。これが法句五一と五二の因縁話である。

(ダンマパダ全詩解説 片山一良参照)

### 心の言葉

仏法は、よく聞かない者には、ちょうど色はそなわってもし、よく聞く者には、大利益のあるものとなる。

### お題目で成仏する十五

原始仏教の教えでは、苦悩の原因を自己の煩惱に求め、苦悩をなくすには煩惱を滅する事が必要とされ、そのためには四諦八正道を修行されました。その結果輪廻転生からの解脱に到達すると教えられました。その結果煩惱を消滅し現世に二度と生まれたいことを目標とする修行は、大宇宙の法則や仕組み目的を無視するものです。大宇宙の法則の一つが輪廻転生(循環の法則)です。

また大宇宙、太陽系、地球、大自然、そしてそこに住む動物植物その一切は生命体であり、循環の法則に従い、その生命には本来目的があったのです。その目的とは宇宙環境、地球環境の調和と魂の進化です。その目的は苦悩の解決、魂の解放と悟り、この宇宙の法則と進歩の目的に魂の解放と進化は、宇宙自体の目的でもあるのでしよう。魂の解放と進化は、宇宙自体の目的でもあるのですから。日蓮大聖人以前の教えでは、仏の境地は偉大すぎるため、人が仏に成るためには、いくつもの生涯を輪廻転生し、永遠の時をかけた修行せねばならないと、かつては考えられてきました。また小さな自分の力では救われないことも出来ないと考え、仏の大きな力に頼るしかないことも考えられました。法華経には、すべての衆生に仏性という仏の慈愛と叡智が内在している、と説かれていました。煩惱にとらわれ、苦悩にあえぐ人類も、自らの心に内在する仏性を信じ、苦悩を消滅し、智慧を使い、人生の問題を解決し、自由の境地に到達することになります。諸問題を解決し、また仏の働きをすることになります。生死輪廻の生にあつたまま、輪廻転生の涅槃に到達できません。